

最優秀賞

安芸高田市 「広報あきたかた」 (令和4年8月号)



■発行部数(年間発行回数): 13,250部(12回)

■担当課: 総務課秘書広報室

■連絡先: 0826-42-5627

【担当者より(主な記事の掲載意図)】

広報紙のリニューアルのタイミングということで特集記事は、節目を迎えるものに着目して企画。今年度創立30周年を迎えたサンフレッチェ広島仙田社長と安芸高田市市長とのトップ対談や、今年度取り組みを開始した毛利元就入城500年記念事業、災害から1年の振り返りを取り上げた。

トップ対談記事では、サンフレッチェ広島とマザータウンである本市とのこれまでの関係性や、これまでの展望についての意見交換を掲載し、写真でつながりの深さを表現。毛利元就入城500年記念事業記事では、取り組みが始まった旨をわかりやすく伝える工夫を凝らした。

= 講 評 =

○広報紙のレベルを一気にあげた印象がある。

○トップ対談ではそれぞれに対する思いがよくわかるし、地域とチームが繋がっていることが見える。

○単調な募集になりがちな職員採用試験も、育休や先輩からのメッセージを入れることで興味が出るよう工夫されている。

○リニューアルして、ポップでおしゃれになった表紙。横書きのフォーマットに統一している点はとてもいい。

優秀賞

東広島市 「広報東広島」 (令和4年 11月号)



- 発行部数(年間発行回数): 96,200部(12回)
- 担当課: 広報戦略監
- 連絡先: 082-420-0919

【担当者より(主な記事の掲載意図)】

東広島市の外国人人口は年々増加している。企業や大学など、さまざまな場所で外国人との関りが増えていく一方、日常生活では、地域住民と外国人との関りが薄いのが現状である。本特集では、さまざまな外国人に日常生活や仕事について語ってもらい、その様子を掲載。また外国人との交流やサポートについても紹介している。読んだ市民に興味を持ってもらい、親近感を感じてもらうことで、日本人と外国人との心理的距離を縮めることを狙った。デザインは、表紙も含めて漫画調とし、とっつきやすさとテンポよく読み進められることを重視した。

＝講評＝

- 多文化という全国でもテーマとなる話題について、若い二人により明るいタッチで紹介されており、好感度が高い。また、イベントや取り組みについて多面的につなげてあり行動にもつながる内容となっている。
- 伝えないといけないことはキチンとした文章で伝え、特集ページの明るい言い回しもピッタリはまっていて良い。
- 読みやすい。いろんな立場の人の意見を上手くまとめている。
- フォーマットが漫画風なので雑多になりがちだけど、写真や図の量感もよいと思う。
- コミック調にしたデザインは、とっつきやすく知ってもらいたいと思う意図が成功していると思う。